

円明寺地区の竹林を整備
久保川と天王山の森を守る会

「国宝の茶室『待庵』が大山崎町に存在するのは、昔からこの地下水がおいしかったことの証ではないでしょうか。おいしい地下水は大山崎の宝です。これを守るためには、天王山の森を守らなければいけません。私たちの活動に、ぜひあなたの力を貸してください。」



久保川と天王山の森を守る会
(世話人) 竹内
✉ h.takeuchi0091@eto.eonet.ne.jp

毎年秋に開催
森林ボランティア養成講座

竹林での安全な作業方法などの講義、実際に竹林の中に入っ
ての実習などを行います。
とき＝毎年10月～11月
※決まり次第、本誌でお知らせ
します

対象＝今後、森林ボランティア
に従事できる20歳以上の方
問＝経済環境課経済観光係
☎956-2101 (内255)



のつとつて整備を進めていま
す。地主さんの理解と協力が、
森林整備の根幹を担っている
のです。
整備が完了した森林は、原
則的に所有者がその後の管理
をしていくことになっていま
す。しかし、高齢化などさま
ざま事情で、地主の皆さんが
個人で森林の管理をしていく
のは難しいというのが実情。

1回きりの整備では
意味がない
現在、天王山周辺森林整備
が抱える最大の課題は、整備
後の森林の維持・管理をいか
にして行っていくか、という
ことです。天王山の森を侵食
している孟宗竹は外来種であ
るために天敵が少なく、環境
に適応してどんどんその生育
範囲を広げています。一度伐
採整備した竹林でも、残った

地下茎から毎年1ヘクタール
あたり3,000本もの竹が
新たに育ち、3年も放置する
と、ほぼ元通りの暗い森に戻
ってしまうのです。
天王山周辺森林整備推進協
議会が整備対象としている面
積は、先述のとおり約250
ヘクタール。一方、1年間に
整備できる面積は、およそ10
ヘクタール。単純計算で、す
べての整備を終えるまで25年
もかかる見通しとなります。

森林整備はすべて順調に進んでいるわけではありません。
現状を見つめ、問題点をしっかりと把握して初めて
未来への展望が開けます。
取り組みを、真に意味あるものにするため
天王山周辺森林整備が抱える課題に迫ります。

継続が今後の課題

筍の状態から、2カ月程度で
15メートルほどの高さに成
長する孟宗竹。ピーク時には
1日で1メートル伸びること
も。この成長の速さが森林整
備を難しくしています

とても、一度整備した森林の
アフターケアまでしている余
裕はありません。

**地主さんの理解、
ボランティアの
人手が不可欠**

そもそも、天王山のほとん
どは個人の所有地。所有者は
200人以上にも上ります。
協議会では、地主さんとの間
で「天王山周辺森林整備事業
実施協定書」を結び、これに

こんなに違う！
整備前後の竹林の比較



上が整備前の竹林、下が整備後の竹
林。整備後の竹林は光が差し込み、
随分明るくなっているのが分かります。
この状態を維持するためには、
定期的な伐採整備が必要となります

そこで、森林整備を行うボラ
ンティアが地主さんと協定を
結び、竹林の管理を請け負っ
ています。

しかし、このボランティア
にも限界があります。成長し
た竹をのこぎりで切り倒して
枝を払い、長さを揃えて切斷
し、崩れないように積む。こ
れだけの作業をしようと思
うと、作業ペースは1時間に
せいぜい4本ほど。また、ど
のボランティア団体も、メン
バーのほとんどが60歳以上。
きつい作業をそれほど長時間
できるわけではありません。

天王山の森林整備の最大の
課題である「整備後の竹林の
継続的な管理」を実現するた
めには、地主さんの理解と協
力、ボランティアの人手不足
解消が必要不可欠なのです。

私たちの里山「天王山」 の明るい未来のために



これまでにも何度か、新幹線や高速道路から天王山を眺める機会がありました。20年ほど前と比べ、現在では竹林が随分広がって来ているという印象を受けます。このまま放置しておく、山の上の方に残っている雑木林も、いずれは竹に侵食されてしまうでしょう。

人がたくさん山に入って、森の恵みを利用する。これが、里山の理想的な姿です。昔の人はエアコンもない時代に、山で採った薪を燃料にして生活していました。人の営みに

よって自然と整備された森には、竹が入りこむ余地もなかったはず。でも今の時代に、これは理想の話。現実的には人々が山で薪を拾うような生活に戻ることはありません。ですから、遊びでも良いので、とにかく山に入って、山との関わりを持つてほしいですね。そうすることで、自然に対する関心を深めてほしいと思います。

天王山の森を守るために、さまざまなボランティア団体がとても熱心に活動しています。また、年に数回開催され

「関心を持つことが、森林整備の第一歩」

るボランティア行事には、本当に多くの方が参加してくださいます。こういった行事は、地域全体の意識の高揚にも役立っていると思います。でも、純粹なボランティア精神だけではなかなか続かないものです。これまでのボランティア参加者をつなぎとめ、さらに参加者を増やすには、やはりボランティアに参加したいと思う動機が必要です。それは、大人にとっては筈だったり、

子どもにとってはカブトムシだったり。とにかく、自発的に山に入りたと思うきっかけを作ることが大切だと考えています。

また、ご協力いただいている地主の皆さんに納得していただけるよう、しっかりと整備をし、実績を作っていくことも重要です。実績を積み重ねていくことで、ご協力いただける地主さん、そしてボランティアさんが増えてくれ

ば嬉しいですね。

天王山は歴史的にも有名な山で、上まで登れば素晴らしい景色も広がっています。整備によって森は随分明るくなり、小さな木も育ってきています。山に登れば、森が変わりつつある状況に気付いていただけるはず。皆さんが関心を持つことが、天王山の森を守ることにつながるのです。

天王山の森を守るも壊すも、私たち次第。身近な自然にもっと関心を持ち、もっと親しむ。そんなに難しいことではないはず。心に、森に潤いのある暮らし。悪くないと思いませんか？



天王山周辺森林整備推進協議会会長

ナカムラ アキヒロ
中村 彰宏さん

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科
緑地環境科学専攻 緑地保全・創成学講座
准教授 博士（農学）
1968年11月6日生まれ、41歳